

平成27年度 第1回高山市総合教育会議における意見の論点整理

○地域との関わり・協働のまちづくりに関すること

- 協働のまちづくりの中で子ども達をどう育てていくのか、そこでのネットワークづくりが必要。
- 地域で子ども達を育てることが大事。それにより地域力も向上していく。
- 全国の高校生で不登校になった子が約12万人おり、その内約5万人が退学しているというデータがある。不登校にならないための対策は、小学校の頃から何かしらの手立てが必要となる。教育委員会でその対策を考え政策提言をしていくためにも、予算が必要と考えている。将来的には、協働のまちづくりの中で、そのような子たちの居場所をつくれることが理想。
- すでに、子ども参画会議と一緒に取り組んでいるまちづくり協議会もあるが、全ての協議会において、教育・子ども達のことを視野に入れて取り組むことが必要。
- 0歳から18歳までとの考えがあるが、マイナス1歳から社会人スタートまでの支援が必要。

○福祉・保健との関わり・特別な配慮の必要な子への支援に関すること

- 子ども達は学校教育だけでなく、福祉分野など複数の分野が関わってくるため、担当課だけでなく市役所内での横のつながりが大事。
- 最近では学校へ来づらい子供達が増えているため、特別な配慮の必要な子に対して、もう一步踏み込んだ支援をしていただき、どんな子も分け隔てなく教育を受けられる環境が必要。
- 学校現場では、車いすの子や障がいのある子など特別な配慮の必要な子がいるが、その子達への支援員が不足している。小学校の低学年の頃から療育と教育をすることで、子ども達の可能性を引き出せる。
- 人口が減っていく中で高山市の労働力を考えると、特別な配慮が必要な子達に、小さい頃からその子にあった教育、支援をすることで一人前に働けるようになるため、指導員の先生をつけて段階ごとの教育をしておくことが大事。
- 教育分野については成果が見えにくいいため予算がつきにくい。今の教育環境は充分ではないと考えているが、支援員の充実などの環境整備をするためには予算が必要。

○キャリア教育・高校との連携に関すること

- 医療・介護・福祉分野の人材不足を解決していくためには、子ども達が地元に戻って来てくれることが必要。市長公約にもあるが、小中学校の頃から福祉分野等に携わる将来像をみせるためにもサテライトキャンパスの設置が必要。
- 子どもが社会に出るためには大人の声を聴くことが重要。大人が情熱をもって語りかけ現場の声を聴かせることで、子ども達も希望や夢を抱いて社会に出ていける。そのためにも、キャリア教育を組織化し充実させることが大事。
- 地域の活性化、地域の子ども達を成長させるためにも高校生を取り込んでいく仕組みが重要。教育振興基本計画の中でも高校生への視点は抜けている。
- 高校生が地域の課題解決に向け、地元の企業などと連携して新しい商品を開発するなどエネルギーに活動している。大学との連携も重要だが、市と高校生の連携、小中高との連携により、子ども達がより成長していく。
- 本町三丁目に実践的な店を出店したり、飛驒牛乳とのコラボで商品開発するなど、高校生がまちづくりに参画している。どこに住んでいるのかは関係なく、飛驒地域に住んでいる子供からお年寄りまでの全体的な教育力をあげることが大事であり、そのためには高校生との連携が必要。

○食育・学校給食に関すること

- 食育は学校教育にとどまらず、全ての年代に重要な分野。
- 給食で使って欲しい食材がいっぱいあるし、子ども達に知って欲しい食材もある。

○文化・文化財に関すること

- 子ども達に価値があることを植え付ける必要がある。各町内に資料はあるが、それをまとめたりする人材がないため、学芸員など専門的な人が必要。地域ごとに誇りを持たないと地域が持続していかない。
- 合併した市町村にはそれぞれの良いところや地域の宝があるため、大人も子供もそれを見直して、お互いの地域の良さを学ぶことが必要。また、深く知るためには時間はかかるが、小学校の頃から少しずつ地域のことを知る必要がある。
- まちの博物館に魅力ある展示品が少ない。まちの博物館は学習教育の施設であるため料金を徴収できないとのことだが、酒蔵だったところは切り離し、喫茶店にするなど有効活用することで、今進めている旧森邸の整備に併せ、まちの博物館を起点とした周遊ルートなどができる。

○スポーツに関すること

- 現在、中山野球場は条件を満たさないことで高校野球の予選会場とされていないが、これは高山市にとって大きな損失だと考える。予算はかかるが市全体の子どもの育成を考えれば、投資金額以上の効果がある。